

山行報告書

日時	2016年 1月23日(土)~24日(日)	天候	24日(雪)
山名	県連登山学校 中級コース 第九回講習 九重		
CL	木下講師	参加者	高田 (1)名
(コース)	<p>23日 ゴンドー・シャロレー(泊)</p> <p>24日 6:30宿泊地発・・・8:20赤川登山口発・・・クランボン・ワカン装着歩行・コンテ・・・久住～稲星 稜線・・・15:40赤川登山口 解散</p>		
(コメント)	<p>今回は数十年ぶりに九州中が寒波にみまわれ、頂上付近では気温-18℃、風速15m/sという悪天候のアルプスにも匹敵する環境であり、冬山でのビレイ方法、滑落停止訓練、ビーコンでの搜索方法などの講習は取り止めとなり残念でした。以下内容です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人が遅れると全体の動きが制約されるので出来るだけ遅れないようにする。歩きながら出来ることは歩き出してから出来るよう準備をしておく。 ・休憩中はすぐに出発できるようまず初めに出発の準備を整えた上で行動食を食べたりする。 ・降雪中にザックを開けるときは雪が入るので中身を小分けにして防水処理をしておく。 ・パッキングをする際は取り出しやすいように入れる順番を工夫しておく。 ・風雪の中での行動中は最大限にお互いの見守りを敏感にし、特に顔面の凍結や凍傷防止に心掛ける。(つま先・指・顔 先端や露出している部分に注意) ・視界が悪い時の隊列の崩れに注意する。間隔があかないようペースの調整をする。 (ただしクランボン・ピッケルの先が転倒したときに他人に当たらない程度の間隔は必要) ・自分がこけたりバランスを崩したり何か起こったときは周りのメンバーも同じ条件にさらされているということ、自分への注意喚起も含めて積極的に声掛けをする。 ・クランボン・ワカンなどギア類は事前に調整をし確実に身に付ける。 (装着して10分ぐらいしたらリーダーは緩みを見直す時間を持つ。) ・リーダーは班全体の行動を見ながら適切な動きや指示を出す。 ・班全体のまとまりを考える。自分のことばかり考えない。メンバーの手助けをする。 ・転倒するときは大声で知らせる。他人を巻き添えにしない。 		
費用概算	<p>(交通費/人) 2,500円</p> <p>(その他/人) 宿泊費 2,500円</p>		

(2015.04.09改訂)